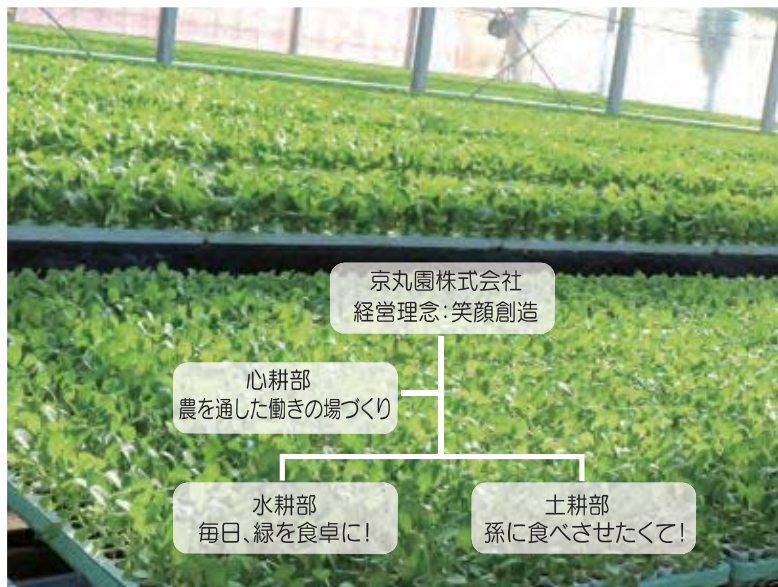


身近な エコロジー Ecology

「地産地消」はフードマイレージの観点からも環境に優しい取組み。さらに土地が持つ風土に合った食物を自然に育てる「適地適作」はエネルギー消費も少なく栽培することができるため、より一層、エコロジーといえるでしょう。

■京丸園株式会社
静岡県浜松市南区鶴見町380-1
TEL.053-425-4786
http://www.kyomaru.net



安全な食と安定の職を創出するユニバーサル農園 人を中心に農業をデザインすることで強い農業を目指す！

鈴木厚志社長は13代目。この地で先祖代々農業に携わってきた。家業を守り継ぎ、次代にしっかりと繋いでいなくてはならないという原動力にもなっている。

農業といえば土が基本だが、12代目が昭和48年にいち早く水耕みつばの生産を開始したことにより、家族経営型から、植物工場生産型に転換された。現在では、姫ねぎ、姫みつば、姫ちんげんの生産を行い、全国44市場に年間を通じて出荷している。

京丸園の従業員は現在80名。81歳から15歳までと幅広い年齢層で構成されている。そして特筆すべきことは、24名の障がい者がスタッフとして働いていることだ。現在障がい者の割合は3割だが、健常者と障がい者の割合を6:4にし、100名体制で終身雇用を実現させるのが理想形だと鈴木厚志社長は語る。経営理念は「笑顔創造」。笑顔は人と人との和の始まり。互いの笑顔が互いの支えとなるように、智慧と手足を心からの笑顔を創るために働かせたいという社長の思いが溢れている。



「障がい者雇用について、周囲の方からは鈴木さんは優しい人ですねとよく言われます。しかし、私は農業を変革していくためには、障がい者の力が絶対に必要だと考えているからです。彼らは私の先生です。彼らが働ける環境をつくれれば農業というビジネスは必ず強くなります。私たちの目指すユニバーサル農園とは福祉のための農園ではなく、農業経営における幸せの追求です。」と鈴木社長。「農業は長年の経験をもとにして勘をたよりにしてきました。苗にちょっと水をかけといて…。こんな曖昧な指示では、経験のない人は作業を手伝うこともできませんし、人材を育成することもできません。後継者が育ちにくいのもこうしたことが大きな原因だと気づいたのです。ですから抽象的な言葉が飛び交う農業を変革し、誰もが理解できる具体的な作業指示を構築して強いビジネスにしたいと思っています。」



浜松を農業で元気にしたい、農業で食と職を元気にしたい。その思いを叶えるために作業をする「人」を中心に農業をデザインし、未来のユニバーサル農園誕生に向けて鈴木社長は挑戦を続けている。



毎日食べるお米だから家族もご近所も安心して口にできるよう、「当たり前」の作り方をしています。元気なアイガモ君たちが田圃を泳ぎ回っては腹一杯雑草や虫を食べてくれます。無除草剤、無殺菌剤、無殺虫剤。自家製の有機肥料中心に育てることで、安全・安心なお米づくりを心掛けています。

募集中 積極的なエコへの取り組みを教えてください。企業から個人まで、積極的にエコに取り組む様子を紹介します。(公社)浜松東法人会までご連絡ください。

TEL.053-453-4549 FAX.053-457-3729

MAIL info@hamamatsueasthojinkai.or.jp

掲載は無料です

※取材により記事を作成しています。浜松東法人会がサービス等について保証するものではありません。